

# **医学部臨時定員の状況及び 令和 7 年度の方針（案）について**

**和歌山県福祉保健部健康局医務課**



# 医学部定員増の経緯について

## ※赤字が臨時定員に係るもの

### 平成20年度定員増

#### <緊急医師確保対策による医師養成増>

##### ①全都道府県を対象とした緊急臨時的な医師養成増

###### ・**県立医大地域医療枠 5名**

・期間：平成21年度から最大9年間

公立大学は平成20年度から10年間（※平成31年度まで延長）

##### ②医師養成総数が少ない県における医師養成増

・県立医大県民医療枠 20名

・期間：平成20年度からの恒久措置

### 平成21年度定員増

#### <経済財政改革の基本方針2008に基づく医学部定員増>

・県立医大一般枠 10名

・期間：期間限定なし

### 平成22年度定員増

#### <経済財政改革の基本方針2009に基づく医学部定員増>

###### ・**県立医大地域医療枠 5名**

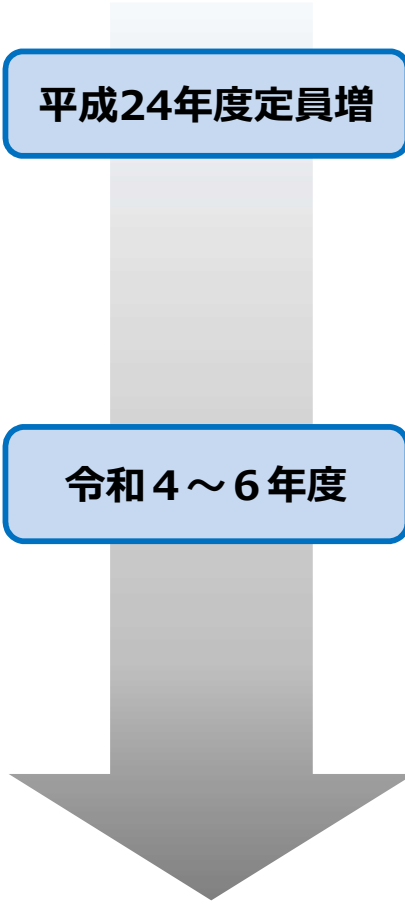
###### ・**近大和歌山県地域枠 5名**

・期間：平成22年度から10年間（2年間延長し、令和3年度まで）

・県が講ずる措置：卒業後一定期間地域医療等の従事を条件とする奨学金設定

次頁へ

# 医学部定員増の経緯について



平成24年度定員増

## <新成長戦略に基づく医学部定員増>

### ・近大和歌山県地域枠 5名

- ・期間：平成24年度から8年間（2年間延長し、令和3年度まで）
- ・県が講ずる措置：卒業後一定期間地域医療等の従事を条件とする奨学金設定

※令和2年度入学から定員を2名に減員

令和4～6年度

## <令和4～6年度の医学部臨時定員に係る方針>

- ・前年度と同様の方法で暫定的に延長することが決定

# 令和6年度の地域枠について

令和6年度

大学名	種類	地域枠 設置数	選抜方法（募集）		修学資金貸与 （月額）	従事要件
和歌山県立 医科大学	県民医療枠A （従来どおり）	20名	推薦（5名程度） 一般（10名程度）	（全国）	なし	卒業後9年間、県内の公的医療機関等で勤務 ※うち4年間は地域の中核病院等で勤務
	県民医療枠B （産科枠）		推薦（3名以内）		自 宅10万円 自宅外15万円	卒業後、貸与期間の1.5倍の期間、県内の公的医療機関等で勤務 ※うち5年間は県が指定する公的医療機関等で選択した診療業務（産科にあっては、分娩取扱医療機関に限る（婦人科のみの診療業務は対象外））に従事。
	県民医療枠C （産科、小児科、精神科枠）		一般（2名程度）			
	地域医療枠【臨時定員】	10名	推薦	（県内）	自 宅10万円 自宅外15万円	卒業後、貸与期間の1.5倍の期間、県内の公的医療機関等で勤務 ※うち5年間は県が指定する公的医療機関等で内科等に従事
近畿大学	和歌山県地域枠【臨時定員】	2名	一般	（全国）	20万円	<同上>

## 令和 7 年度の医学部臨時定員に係る国の方針について①

### 【令和 5 年11月27日 厚生労働省・文部科学省通知（概要）】

- 令和 6 年度末を期限とする臨時増員の枠組みは令和 7 年度末まで 1 年間延長する
- 令和 7 年度の臨時増員にあたり、各都道府県は積極的に大学と恒久定員内への地域枠や地元出身者枠の設置について調整を行った上で、臨時定員の必要性を慎重に検討すること。
- 文部科学省及び厚生労働省は、臨時定員全体の必要性を十分に精査し、とりわけ前年度比増となる意向の都道府県・大学や医師多数の都道府県については、医師偏在指標、地域枠医師の配置・運用状況、医師養成過程における教育・研修環境の体制、医学部定員の欠員の状況等を精査し、地域の医師確保・診療科偏在対策等に有用で、地域における医師の確保に真に必要な範囲に限り臨時定員の設置を認める。
- 必要に応じ、臨時定員の設置を希望する都道府県・大学に対し、有識者も含めた検討の場でヒアリングを実施する。

## 令和 7 年度の医学部臨時定員に係る国の方針について②

### 〔厚生労働省とのオンライン面談（令和 5 年12月26日）〕

#### ○厚生労働省医政局医事課 医師養成等企画調整室からの伝達事項（概要）

- ・ 令和 6 年度の医学部定員が全国9,403名であり、令和 7 年度は全国上限の9,420名に達する可能性がある。もしそうなれば、臨時定員をどこか減らしていただく必要がある。
- ・ その場合、医師多数県から減らしていただくことになると思うが、臨時定員を減らせない場合、恒久定員内に入れていただくことになる。
- ・ 例年、まずは臨時定員の意向調査を実施し、必要に応じてヒアリングを行った後、8 月頃に都道府県に結果連絡という流れとなる。8 月頃の結果が出てから動き出した場合、大学と調整するのはスケジュール的にタイトになると思うので、事前に恒久定員内への地域枠の設置について、大学と協議を始めてもらいたい。

#### 令和 7 年度医学部臨時定員に係る県の方針

※前回（令和6年3月15日開催）の令和5年度第3回  
和歌山県医療対策協議会にて了承いただいた方針

- ・ 医学部臨時定員 1 2 名について、大学と調整の上で継続要望を行う。  
（県立医大地域医療枠 1 0 名、近畿大学和歌山県地域枠 2 名）
- ・ 臨時定員の減少に備え、和歌山県立医科大学、近畿大学とは協議を開始する。

## 医学部臨時定員の配分の具体的対応について

令和6年4月26日  
第4回医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会資料（一部改変）

- 各都道府県の医学部臨時定員の意向については、具体的には、以下の方針で配分することかどうか。

### 令和7年度の医学部臨時定員の意向の配分・調整方法について（案）

各都道府県の令和6年度臨時定員地域枠数を基準として、以下①～③の順で調整を行う

#### ① 医師多数県の意向の調整

医師多数県については、医師少数県・中程度県と比較して、臨時定員として地域枠を確保する必要性が低い一方で、大幅な変更は教育・研修・診療体制への影響等も考えられることから、その臨時定員については、原則として令和6年度臨時定員地域枠に0.8を乗じたものとした上で、③の調整を行う。

#### ② 医師少数県の意向の調整

医師少数県については、医師多数県・中程度県と比較して、現状の医師が少ないだけでなく、若手医師についても少ない傾向があることから、臨時定員地域枠の要件を満たしつつ、教育・研修体制が維持される範囲内で、医師多数県から削減等した定員数分を活用して、原則、令和6年度比増となる意向がある場合には、意向に沿った配分を行う。

#### ③ 残余臨時定員数の意向の調整

①②の対応を行った上で、臨時定員総数が令和6年度臨時定員総数に達していない場合には、その範囲内において※

- － 恒久定員100名あたり、恒久定員内地域枠を4名以上設置している等、更なる県内の偏在是正が必要な都道府県については、
  - ・ 医師多数県では、例えば令和6年度臨時定員地域枠の一割等、一部の意向を復元する
  - ・ 医師少数区域のある医師中程度県では、令和6年度比増となる意向がある場合、医師少数区域等に従事する枠となっているか等、地域枠の趣旨の範囲内で配分を行う
- － 臨時定員研究医枠の令和6年度比増希望がある場合には、その趣旨の範囲内で配分を行う。

※ 配分を行うにあたっては、臨時定員地域枠の要件を満たした上で、必要に応じて教育・研修体制、医師少数区域への地域枠医師の配置状況や診療科選定の状況、若手の医師数、医師偏在指標の多寡、過年度の臨時定員地域枠充足率等についても考慮する。



## 令和 7 年度の医学部臨時定員に係る国の方針について③

[令和 6 年 6 月 6 日]

厚生労働省医政局医事課 医師養成等企画調整室より伝達

- ・第 4 回検討会（※）において臨時定員の調整方法について合意された配分・調整方法に基づき、和歌山県の令和 7 年度臨時定員は 11 名になる予定。

（※）第 4 回医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会（R6.4.26）

＜配分・調整方法（前頁）に基づき計算＞

$$\textcircled{1} 12\text{人} \times 0.8 = 9.6 \cdots 10\text{人}$$

$$\textcircled{3} 12\text{人} \times 0.1 = 1.2 \cdots 1\text{人}$$

$$\Rightarrow 10\text{人} + 1\text{人} = \text{11人 (▲1)}$$

県立医大 10 名、近畿大学 2 名の臨時定員のいずれかを 1 名減少させる必要

## 令和7年度の医学部臨時定員に係る県の方針（案）について

- **恒久定員内への地域枠の設置状況**（県立医大…県民医療枠20名、近畿大学…なし）、**義務年限の修了状況等**を勘案し、以下のとおりとしてはどうか。

### 令和7年度医学部臨時定員に係る県の方針（案）

- ・ 近畿大学和歌山県枠 2名→1名（1名削減）
- ・ 県立医大地域医療枠 10名（削減なし）